

徳山医師会病院 患者数統計 本館180床 西館(療養型)150床

項目 / 年度	2017(平成29)年度	2018(平成30)年度	2019(令和元)年度	2020(令和2)年度	2020(令和3)年度 4月~9月	
在院患者延数	89,665人	86,712人	84,512人	78,354人	35,276人	
在院患者数(1日平均)	本館	142.8人	137.9人	122.6人	116.3人	95.9人
	西館	101.2人	100.0人	96.3人	98.3人	96.9人
病床利用率(年間%)	本館	79.3%	76.6%	68.1%	64.6%	53.3%
	西館	67.5%	66.6%	64.2%	65.5%	64.6%
平均在院日数(本館)	19.5日	18.5日	18.5日	17.8日	15.0日	
外来患者延数(年間)	22,164人	22,411人	22,551人	15,018人	7859人	
外来患者数(1日平均)	58.7人	57.9人	56.5人	51.2人	53.1人	

薬剤師のおくすりいろいろ話

其の46

コロナワクチンのブースター接種

ブースター接種とは?

ブースター(booster)は「増幅器」という意味であり、ブースター接種とは「ワクチン接種や病気にかかって免疫を既に持っている人が、更にワクチンを接種することで追加免疫を得ること」です。コロナワクチンにおいては「2回目接種を行うことで抗体が増え、安定した効果が得られる」とされている為、2回目接種完了からの追加接種である3回目、ブースター接種と呼ばれています。

ブースター接種が必要な理由は?

ワクチン接種後の効果は時間と共に減少するからです。ファイザー製、モデルナ製、アストラゼネカ製いずれにおいても、2回目接種後、5ヶ月程で感染予防や重症化予防の効果は半分程度に低下したという報告があります。しかし、ブースター接種によって再び効果が高まると言われています。

1・2回目の時と違う種類を接種しても良いか?

現時点の情報では「1・2回目と同じ種類(mRNAワクチンであるファイザー製かモデルナ製)のワクチン接種を基本軸とする」ということなので、3回目も1・2回目と同じ種類を接種する可能性が高いと思われます。しかし海外では、ワクチン不足の関係で違う種類(ウイルスベクターワクチンであるアストラゼネカ製)のワクチンを接種した結果、「同じ種類を接種するより効果が高い可能性がある」という報告も増えてきているようです。

ブースター接種の副反応は?

2回目接種と同等または軽いという報告が多いようです。

引用:厚生労働省ホームページ、ひまわり医院ホームページ

栄養関連ニュース

お酒の適量とは?

厚生労働省が推進する国民健康づくり運動「健康日本21」によると、節度ある適度な飲酒は、一日平均純アルコールにして約20g程度とされています。とはいえ、日本人はアセトアルデヒドを分解する酵素が欠損している割合が高く、お酒に弱い人種です。この酵素の活性は遺伝子によって異なるので、私たちは両親からお酒に「強い」か「弱い」かを受け継ぐことになります。また、お酒に対する強さは、個人差があります。例えば女性よりも男性の方が、高齢者よりも若い人の方が、アルコール分解能力が高いとされます。体重の重い人と軽い人が同量のお酒を飲んだ場合には、重い人の方が血中アルコール濃度が低くなる為、酔いにくいことも分かっています。

酒類別の目安量

- ビール(アルコール度数5度) → 中瓶1本(500ml)
- 日本酒(アルコール度数15度) → 1号(180ml)
- 焼酎(アルコール度数25度) → 0.6合(110ml)
- ウイスキー(アルコール度数43度) → ダブル1杯(60ml)
- ワイン(アルコール度数14度) → 1/4本(180ml)
- 缶チューハイ(アルコール度数5度) → 1.5缶(520ml)

飲酒習慣のない人に対してこの量の飲酒を推奨するものではありません。周りの雰囲気にならせず、自分のペースで飲むことが大切です。



引用:アサヒビール 人とお酒のイイ関係

当院では受診の際「開業医」の紹介が必要です。
当院での診察や検査をご希望の方は「かかりつけ医」若しくは「開業医」へご相談ください。

編集後記

今回の本誌はノロウイルスに関する内容でした。ノロウイルスは感染力が強い為、この時期は特に気を付けてはいるのですが、毎年流行しているような気がします。私は「毎年流行するのだからノロウイルスも予防的なワクチンがあれば良いのになあ」と思い、調べてみたところ臨床試験はされているようですが、実用化には至っていないようです。やはり日ごろの手洗いなど基本的な予防を続ける事が大切なのですね。



徳山医師会病院だより



2022年 第55号
発行元 地域医療支援病院
オープンシステム
徳山医師会病院
〒745-8510
周南市東山町6番28号
TEL 0834-31-2350
FAX 0834-31-1623
http://www.tokuyamaishikai.com/

「オミクロン株の特徴と対応」 徳山医師会病院 病院長 山本 憲男

沖縄、岩国に端を発した、オミクロン株の感染拡大はアツと言う間に全国的な感染拡大となり、全国集計で1日発症数が10万人を超え、都心では2万人を超える日もあり、その感染力の強さを実感します。オミクロン株の感染から発症までの期間は平均で3日です。(図1)

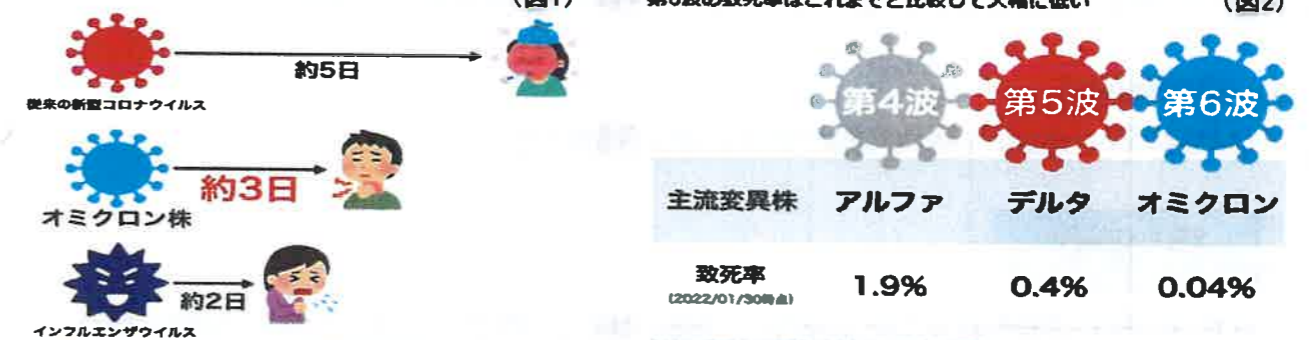
「発熱」「咳」「咽頭痛」などが主症状で現れ、肺炎まで進行する例は少ないようです。

オミクロン株の感染から発症までの期間は?

(図1)

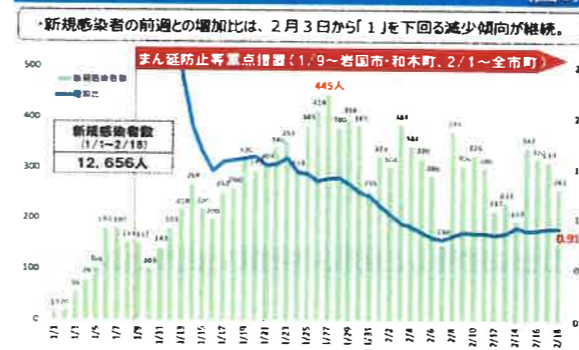
第6波の致死率はこれまでと比較して大幅に低い

(図2)

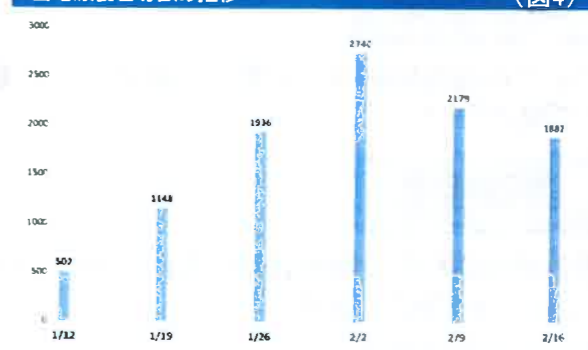


オミクロン株では第4波や第5波のα株、δ株に比べて致死率は低いです。全体の感染者数が多いので、高齢者の感染者が増えると死亡者数も増えます。(90%以上は70歳以上の方)(図2) (図1・2は忽那先生のブログより引用)

県内の新規感染者の発生状況 (図3)



自宅療養者等数の推移 (図4)



県内の感染者数は年明け以降急増し、1月27日に過去最多の445人にまで上りました。しかし、まん延防止措置の対象を全県に拡大した2月1日以降減少傾向となり、2月16日時点の感染者は320人で、直近1週間の人口10万人当たり新規感染者数は全国で7番目に低く、減少傾向ですが、自宅療養など数は1800名を超えています。(図3・4)

今後気をつけねばならない要点として

①院内クラスターの発生を防ぐためには、咽頭痛、発熱などの臨床症状に注意し、疑わしい場合には無症状でも早めにPCR検査(または抗原検査)を受ける事です。

②コロナ疑い患者さんが受診できる発熱外来などの医療機関は全国で約35000施設ですが、名前を公表しているのは約24000です。県下ではコロナ対応の検査が可能な医療機関として公表されているのは約500施設、周南市内では約45施設であり、そのうち20施設では保健所を介してのコロナ患者の電話相談にも対応しています。

③オミクロン株では入院よりも病院以外の在宅療養や宿泊施設での療養が大部分を占めるので、地域ぐるみで対策に当たる必要があります。2月16日時点での全国での自宅療養者は約58万人、山口県では1800人を超えています。保健所による対応だけでは追いつきません。今後は地域がひとつの病院のようになって、地域住民と開業医と病院が連携してコロナに立ち向かう必要があります。

ノロウイルスによる感染性胃腸炎や食中毒

Q. 流行時期は？

A. ノロウイルスによる感染性胃腸炎や食中毒は一年を通して発生していますが、7割は11月から2月に流行します。

Q. 症状は？

A. 感染から発症までの時間は12~48時間と比較的短く、主に嘔吐、下痢、腹痛や軽度の発熱などを起こします。通常はこれらの症状が1~2日続いた後治癒し、後遺症ありません。また感染しても発症しない場合や、軽い風邪のような症状の場合もあります。

Q. 感染経路は？

A. 経口感染から始まり、接触や飛沫、空気を介して感染します。

経口感染

ノロウイルスに汚染された二枚貝を生で、あるいはよく加熱せずに食べた場合に起こります。また、調理者や配膳者が感染していて、ノロウイルスに汚染された手指が触れた食材を食べることも起こります。

飛沫感染

感染者の嘔吐物が床に飛散した際などに、周囲に居てノロウイルスの含まれた飛沫を吸い込むことで起こります。

空気感染

感染者の便や嘔吐物が乾燥すると、ノロウイルスはほこりに付着し、空気中を漂います。これを吸い込むことで起こります。

接触感染

汚染者の便や嘔吐物に直接接触することで起こります。接触感染は、排便後に十分手を洗わずに触れたトイレのドアノブなどを介しても起こります。



汚染者の便や嘔吐物には多くのウイルスが含まれています。処理の際には、使い捨てのマスクや手袋、ガウンなどを着用し、塩素系消毒剤を正しい濃度で使用するとともに、処理の後はしっかり手洗いをしましょう。

Q. 予防方法は？

A. 手洗いをしっかりする、人からの感染を防ぐ、食品からの感染を防ぐことが重要です。

手洗いをしっかりする



©公益社団法人日本食品衛生協会

人からの感染を防ぐ

下痢や嘔吐等の症状がある方は、食品を直接取り扱う作業をしないようにしましょう。また、ノロウイルスに感染した人の便や嘔吐物には触れないようにしましょう。

手洗いをしっかりする

二枚貝は海水中で中腸線(内臓)にノロウイルスを蓄積するため、十分な加熱がされないまま摂取するとヒトの腸管で増殖します。日本で食べられている二枚貝には、牡蠣、アサリ、しじみ、ホタテ、赤貝、ミルガイ、ホッキガイ等があります。中心部が85~90℃で90秒以上の加熱をしてから食べましょう。

全国のノロウイルス食中毒の患者数は近年減少傾向にあります。特に令和2年の患者数は新型コロナウイルスが流行し、手指衛生が徹底されていたため、際立って少ない状況です。手洗い等がいかに効果的かわかりますね。

全国のノロウイルス食中毒の患者数

